様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　５月２２日現在

機関番号：１０１０２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５３０７９２
研究課題名（和文）美術館施設と学校教育の連携による芸術文化環境形成のための基礎研究

研究課題名（英文）The Basic Research for the Development of the Cultural Environment through the partnership between Museums, Schools and University

研究代表者
佐々木　宰（SASAKI TSUKASA）
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：４０２６１３７５

研究成果の概要（和文）：北海道釧路市に設置されている北海道立釧路芸術館、釧路市立美術館の美術館施設２館と学校教育の連携を大学が仲介し、学芸員や学校教員、学生など関係者が相互に関わり合いながら教育普及事業や教育プログラムなどを開発・実践した。連携による教育効果、関係者の人的交流や教育資源の共有化が、地域社会の文化環境形成にどのように寄与し得るかを把握し、英国の先進事例調査結果などを参考にしながら連携のあり方を提示した。

研究成果の概要（英文）：The educational programs and events for museum education were developed and implemented through the partnership between school teachers, university staffs and students, and museum curators in Kushiro, Hokkaido. The relationship of people involved, and sharing of the educational resources contributed to the development of the cultural environment in communities. The effectiveness of this model for the partnership was examined referring to examples in museums in the United Kingdom.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,500,000	450,000	1,950,000
２００９年度	1,300,000	390,000	1,690,000
２０１０年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：美術教育
科研費の分科・細目：教科教育学
キーワード：美術館教育、北海道立釧路芸術館、釧路市立美術館、教育普及、連携、イギリスの美術館教育、Museum Studies

１．研究開始当初の背景
(1)問題の所在と先行研究
　研究を構想した当時、美術館と学校との連携に関する研究には、鑑賞教育やワークショップなどの観点から教科教育及の分野においてなされた種々の先行研究があった。科学研究費補助金による研究においても、石川誠「学校と地域の美術館の連携による生涯教育を見通した鑑賞実践プログラムの構築」（2003～2005、基盤研究 C)、藤江充「生涯学習社会において学校と美術館の連携を促進するための研究」（2000～2002、基盤研究 C）などの研究が行われていた。また、教育普及活動の充実を目指す美術館にとっても学校との連携は課題として認識されており、全国の美術館での様々な実践事例が報告されていた。他方、わが国の地方の公立美術館の多くは財政面などにおいて厳しい状況にあり、入館者数の向上や教育普及事業の内容充実といった課題に少ない人手で対応している

現実もある。このように、美術館と学校との連携に関する研究や実践は、地域及び美術館における個別の状況に応じて多様に展開され、実績が蓄積されている状況にあった。

(2)研究代表者の研究状況

研究代表者（佐々木）は、従来からの教科教育研究の一環として、北海道釧路市に設置されている北海道立釧路芸術館、釧路市立美術館の２館と連携した図画工作や美術の教材開発、カリキュラム開発研究を行ってきた。このような連携を通じて、図画工作・美術の教科教育研究では、学校という限定的な空間における学習者個人の能力向上という側面だけでなく、学習者が生活する地域社会における文化的環境形成への貢献といった側面を意識化する必要性を強く認識するに至った。美術館施設と学校教育との連携を促す具体的な実践活動を行いながら、地域社会における芸術文化関係諸機関やそこに従事する人々など、地域の教育資源の組織化を企図した教科教育研究の在り方を着想した。

２．研究の目的

(1)研究の目的

本研究の目的は、地方都市における美術館施設と学校教育の連携による教育プランの開発を通して両者の教育機能を実践的に検証し、関係者の人的交流や教育資源の共有化が地域社会の文化環境形成にどのように寄与し得るかを把握することである。具体的には、北海道立釧路芸術館及び釧路市立美術館、小・中・高等学校及び北海道教育大学（研究代表者の所属研究機関）のゆるやかな連携協力体制を組織し、鑑賞教育実践やワークショップ、教材開発などを行うことである。釧路市及び近隣地域の芸術文化の環境形成と維持という観点から、連携内容や協力体制の有効性と影響を把握し、芸術文化の環境形成を支える地域の諸教育機関の連携協力モデルを考察することを企図した。

(2)具体的な達成目標

前述の研究目的を踏まえ、以下の４点を明らかにしようとした。

①北海道立釧路芸術館及び釧路市立美術館と地域の学校及び大学との連携によってどのような教育普及活動及び美術教育プランを開発・実践できるのか。

②学芸員、学校教員及び教育関係者など、連携に従事する者の交流、情報やアイデアなどの教育資源の共有化は、近隣地域の芸術文化の環境形成にどのような影響を与えるのか。

③先駆的な活動を行っている英国の美術館では、地域における文化振興や芸術的教養の底上げのためにどのような活動を行っているのか。

④本研究における実践事例は、美術館施設等の生涯教育機関と学校が地域の文化環境形成に貢献するための連携のあり方としてどのようにモデル化されるか。

３．研究の方法

(1)研究組織

本研究の研究組織は、研究代表者（佐々木）と、研究協力者（北海道立釧路芸術館学芸員３名、釧路市立美術館学芸員２名）によって構成されている。研究協力者は、それぞれ美術館学芸員としての高い職能を有しており、美術作品についての見識はもとより、教育普及事業の企画・立案・運営についての実績がある。また、研究代表者と研究協力者は、従来から教育普及活動への参加、学生ボランティアの派遣などを通して協力体制を構築してきた。

他方、研究代表者は、釧路市内及び近隣町村の図工・美術教員の研究団体である「釧路造形教育研究会」に共同研究者として参加しており、学校教育現場との協力関係を持っていた。研究協力者も、それぞれの館の運営を通じて、学校教育現場及び社会教育機関との協力体制を持っている。

本研究の研究組織は、研究代表者及び研究協力者の持っているネットワークを生かしながら、学校教育を含む地域全体の教育資源としての美術館施設の機能を実践的に把握できるように編成された。

(2)研究計画・方法

①北海道立釧路芸術館及び釧路市立美術館における教育普及活動の現状を把握する。従来の教育普及事業や学校連携事業の実績を確認し、当該地域における芸術文化関連施設として２館がどのように機能してきたかを把握する。(2008 年度)

②釧路市内及び近隣町村の学校における美術館施設利用の現状を把握する。学校現場において美術館施設がどのように活かされているか、また利用に伴う利点や問題、教員の意識などを把握する。(2008 年度)

③英国の美術館及び博物館、アートギャラリーにおいて教育普及活動の企画・運営実態について調査し、先駆的な事例を得る。(2008 年度はロンドン、2009 年度以降は地方都市)

④美術館施設と学校の連携による教育普及活動のプログラムの開発と実施を段階的に行い、年度ごとの反省を得ながら両者の連携実績を蓄積する。連携による地域の芸術文化環境への影響を考察する。また、各種事業の成功・失敗要因を抽出し、モデル化を試みる。（2008～2009 年度）

４．研究成果

(1)美術館施設の教育普及活動及び地域の学

校における美術館施設利用の現状

北海道立釧路芸術館及び釧路市立美術館における開館から現在に至る教育普及事業及び学校連携事業の実績を確認した。事業の特徴、立地や付帯設備による利用者の違い、教育普及活動の位置づけなどを確認し、地域におけるそれぞれの美術館施設の実態を明らかにすることができた。

釧路市内及び近隣町村の学校における美術館施設利用の現状を把握するため釧路造形教育研究会の協力を得て、市内及び近隣の学校における美術館施設の活用について、教員からの具体的な意見を聴取した。美術館施設を学校の教育課程で利用する場合、時間の確保と交通機関の問題が大きな障害となっていることが確認された。特に、２館は地域の芸術文化施設として設置されながら、設置主体がそれぞれ北海道、釧路市と異なるため、釧路市立美術館の付帯設備であるバス（釧路市所有）を、市外の町村立学校のために使えないという実態も明らかになった。美術館施設が近隣地域にもたらす文化的サービスが、行政区分によって分断されている問題が明らかになった。

(2)美術館施設、学校、大学の連携による教育普及活動の開発・実践

①研究代表者が主体となって、北海道立釧路芸術館の「棟方志功展」のための小学生向けワークショップを立案し、実施した（2008 年 11 月）。学校教育における版画教育の実態を踏まえた上で、学校教育を補完し、美術館施設の特徴を活かした表現と鑑賞の活動内容を立案し、実践した。

図 1　学芸員による展覧会での鑑賞活動

図 2　学生スタッフによる版画ワークショップ

②研究代表者が主体となって、北海道立釧路芸術館の平成 21 年度ジュニアアートスクールのためのプログラムを立案し、実施した（2009 年 11 月）。多様な年齢層の子どもたちに対応する工作と鑑賞活動を実施した。また、参加者が制作した作品を使ってインスタレーションによる空間構成を行い、同館の企画展示の一部として公開（2009 年 11 月～2010 年１月）し、地域の芸術文化事業（展覧事業）を展開した。

図 3　ジュニアアートスクールでの制作

図 4　インスタレーション展示

③釧路市立美術館が中心となって、現代美術作家の岡部昌生の大規模なフロッタージュのワークショップを開催し、大学生及び市内の中学校・高等学校、市民との連携のもとで作品制作を行い、企画展として公開した（2009 年８～11 月）。参加者のワークショップによる岡部の作品制作と展示を学芸員が企画し、大学、学校、市民がこれに参加して実現した。大学生、学校教員と岡部による巨大なフロッタージュ作品や、中高生や市民による大小のフロッタージュ作品は、展覧会の中心的な展示作品となった。連携協力体制を

基盤にした展示と教育普及活動を実施することができた。

図 5　フロッタージュワークショップ

図 6　展示されたフロッタージュ作品

(3)英国における先駆的事例の調査

美術館・博物館教育の先駆的な事例を調査した。ロンドン及び地方都市（リバプール、オックスフォード、ケンブリッジ、レスター）における以下の美術館及び博物館、アートギャラリーを訪問して、教育普及担当者等からの聞き取り調査や資料収集を行い、特に学校・地域との連携に焦点を当てて教育普及事業の運営の実態を調査した。

V&A Childhood Museum （ロンドン）
Sir John Soane’s Museum （ロンドン）
The National Gallery （ロンドン）
Design Museum （ロンドン）
V&A Museum （ロンドン）
White Chapel Art Gallery （ロンドン）
Tate Liverpool（リバプール）
Modern Art Oxford（オックスフォード）
Fitzwilliam Museum（ケンブリッジ）

それぞれの館における教育普及事業における学校・地域連携について、①豊かなコレクションを資源にした包括的な教育普及事業の中に教育普及事業を位置づけるもの、②地方の地域性を背景として独自の教育普及を展開するもの、③小規模なコミュニティにおける現代美術の展示企画そのものを，地域全体の住民参加型の教育普及活動とするもの、の３つに類型化することができた。これを踏まえ、イギリスの博物館・美術館における教育普及活動と学校・地域連携から得られる知見を以下のようにまとめた。

①イギリスの教育事業は，博物館・美術館を介した「学習」の在り方の追求・模索である。
②各館の教育普及では、それぞれの館が持つ背景を教育事業の資源にしている。
③各館における実践や成果を共有できる全国的な研究組織やシステムが構築されており、有効に機能している。
④連携に関する研究は、全国的な動向把握と事例収集、収集事例の分析と自館の連携事業への適用・実施、というスキームで行われる。

また、Museum Studies の分野において先進的な研究・教育を行っている University of Leicester を訪問し、School of Museum Studies の Viv Golding 博士に面談して、同大のカリキュラム構成と教育内容についての詳細な説明を受けた。美術館教育担当者の資質形成、教育プログラム開発、地域・学校連携についての知見を得た。

(4)美術館施設と学校・大学との連携による芸術文化環境形成

①連携モデルの実践的考察

本研究における連携は、研究代表者と研究協力者（北海道立釧路芸術館及び釧路市立美術館の学芸員）による学校教員や造形教育の研究団体構成員との人的交流を基盤に進められてきた。学校教育現場と美術館施設を仲介役として、教員養成大学は大きな役割を果たすことが明らかになった。在学時代から美術館施設の事業に関与した学生が卒業後に地域の学校教員となり、学校教育を通して美術館施設に継続的にかかわる循環が、大学を通して徐々に形成されていった。また、大学院で学ぶ現職教員の存在は、具体的な生徒の学習活動を通して、学校現場と大学、美術館施設を結びつけた。このような連携によって、学校、大学、美術館施設それぞれが地域の芸術文化環境形成のための教育資源として作用することを当事者に強く意識づけた。

②連携を実現させる条件の抽出

教育・研究機関や教育文化施設の連携には、当該組織や機関・施設どうしの公式な組織的協定に基づくものもあるが、本研究では研究代表者と研究協力者（学芸員）、学校教員の個人的な連携協力に基づいている。組織的な交流よりも、人的交流を優先させるほうが、本研究の対象とする地域や規模においては有効に機能した。

英国の美術館施設における教育普及事業の共同調査では、学芸員の専門性が発揮されて多くの知見を得た。同時に、地域の美術館施設に関わる共通認識が得られ、その後の円

滑な連携を促し、調査結果を生かした教育普及活動の立案や実施につながった。
　北海道立釧路芸術館、釧路市立美術館の学芸員はそれぞれ３名、２名と少なく、展覧会等の事業と教育普及事業を運営する上で十分な人数配置ではないが、それぞれの館における事業の意思決定や取り組みは迅速である。両館の共同開催による展覧会や教育普及事業も企画され、実施に移されている。
　大規模館とは異なり、円滑な意思の疎通を図ることができる小規模館のメリットは、学校現場との連携にも現れた。学芸員と授業を実際に行う教員との直接的なつながりが強くなり、具体的な授業プランに応じた協力を行った。

③多方面に現れた波及効果
　美術館施設と大学との連携の波及効果として、学校と美術館の多様な連携事業が展開された。本学大学院生（現職学校教員）と釧路市立美術館の共同による鑑賞授業では、美術館の収蔵作品を学校現場に貸し出し、本物の美術作品を使った鑑賞授業が行われた。
　北海道立釧路芸術館及び釧路市立美術館では、デジタルフォトフレームを展覧会場の解説として活用し、解説用データを学校等に提供できるような仕組みの原案を企画するなど、情報機器を用いた実験的な連携のあり方に着手した。本研究を契機に、両館と学校や学生など関係者の連携による多様な教育プランや事業が拡大していることを確認できた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）
①佐々木宰、イギリスの博物館・美術館における教育普及活動と学校・地域連携、大学美術教育学会誌、査読有、第 43 号、2011、135-142
②佐々木宰、藤下昌世、美術館施設との連携による造形ワークショッププログラムの開発―北海道立釧路芸術館の平成 21 年度ジュニアアートスクールの事例、釧路論集（北海道教育大学釧路校研究紀要）、査読無、第 42 号、2010、155-162
③佐々木宰、イギリスの美術館における教育普及活動(2)―リバプール、オックスフォード、ケンブリッジの美術館及び博物館、アートギャラリーの事例、北海道教育大学紀要（教育科学編）、査読無、第 61 巻第１号、2010、291-302
④佐々木宰、イギリスの美術館における教育普及活動（１）―ロンドンの美術館及び博物館、アートギャラリーの事例―、北海道教育大学紀要（教育科学編）、査読無、第 60 巻第２号、2010、157-171
⑤佐々木宰、美術館施設との連携による造形教材の開発―北海道立釧路芸術館における版画ワークショップの事例―、北海道教育大学紀要（教育科学編）、査読無、第 60 巻第１号、2009、153-163

〔学会発表〕（計２件）
①佐々木宰、瀬戸厚志、福地大輔、美術館と学校との連携―地域の芸術文化環境形成のために、北海道芸術学会第 15 回例会、2010 年 11 月 20 日、北海道立釧路芸術館アートホール
②佐々木宰、大学と地域の美術館との連携による子どものワークショップのための造形プログラムの開発、第 32 回 InSEA（国際美術教育学会）世界大会 2008in 大阪、2008 年８月７日、大阪国際交流センター

〔その他〕
①佐々木宰ほか、虹の華、ワークショップ作品による空間構成（インスタレーション）、トリックアートの世界展、2009 年 11 月 21 日～2010 年１月 20 日、北海道立釧路芸術館

６．研究組織
(1)研究代表者
佐々木　宰（SASAKI TSUKASA）
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：40261375

(2)研究協力者
瀬戸　厚志（SETO ATSUSHI）
釧路市立美術館・学芸員
角井　千代絵（KAKUI CHIYOE）
釧路市立美術館・学芸員
柴　勤（SHIBA TSUTOMU）
北海道立函館美術館・副館長
五十嵐　聡美（IGARASHI SATOMI）
北海道立近代美術館・主任学芸員
福地　大輔（FUKUCHI DAISUKE）
北海道立釧路芸術館・学芸員